校長室だより

2026年 11 月 9 日
丹波市立進修小学校長

出会いから学ぶ、支え合うことの大切さ

～青い鳥の皆さんとの福祉交流～

先日、4 年生が福祉学習の一環として、視覚障がいのある方と支援者の皆さんで活動されている「青い鳥」の皆さんと交流しました。

これまで子どもたちは、福祉についての知識を学び、視覚に障がいのある方の生活や日常の工夫について学習してきました。今回は、実際に青い鳥の皆さんと出会い、ボッチャやガイドヘルパー体験を通して、体験しながら学ぶ貴重な時間となりました。

ボッチャでは、皆さんと一緒にゲームを楽しみました。子どもたちからは、「ボッチャのボールを投げるときがすごく楽しかった」「ボールは思ったより重く、投げるのは難しかった」といった感想がありました。また、目が見えない方にもボールの方向や距離が分かるように、鈴を使ったり、声を掛けたりする工夫を知り、みんなで楽しむための方法についても学ぶことができました。

ガイドヘルパー体験では、ペアになって相手を案内しました。実際に体験してみると、「自分ではうまくいったと思ったけれど、声を掛けるタイミングがうまくいかなかった」「目が見えないと歩くことが難しい」と、普段は何気なく歩いている校舎の中にも、さまざまな難しさがあることに気づきました。相手に安心してもらうためには、声の掛け方や周りの状況の伝え方など、相手の立場に立って考えることが大切だと感じたようです。また、4年生の子どもたちが本当にやさしく声をかけている姿に感心しました。こうした体験をさせていただいたことで、自分たちにできることを考えるきっかけになったのと、自分にもできると感じてくれたのではと思います。

さらに、青い鳥の皆さんのお話から、エコーロケーションやスマートフォンを使った工夫など、視覚に障がいがあっても自分らしく生活するためのさまざまな方法を知ることができました。子どもたちは、実際にお話を聞いたからこその驚きや発見を得ていました。

交流後に書いたお礼の手紙には、「一緒にボッチャができて楽しかった」「いろいろなことを教えていただき、ありがとうございました」「これからも元気でいてください」といった言葉が綴られていました。

今回の交流で大切なのは、障がいについて知識を得ることだけではありません。相手の立場になって考えること、相手の思いを確かめながら関わること、そして、違いがあっても一緒に楽しみ、つながることができるということを実感できたことです。

「困っている人を助ける」という気持ちも大切ですが、まずは相手のことを知り、「何かできることはありますか」と声を掛けてみること。そして、お互いを理解しながら、一緒に活動を楽しむこと。そんな関係をつくっていけることが、支え合って生きる社会につながっていくのだと思います。

青い鳥の皆さん、子どもたちにたくさんの学びと素敵な出会いを届けていただき、本当にありがとうございました。

今回の出会いを大切に、これからも相手を思いやり、自分にできることを考えて行動できる子どもたちを育てていきたいと思います。